



1. 公園に日常的な賑わいを創出するための定期マーケット「週末の沼津」。
2. 起業家やクリエイターのためのコワーキングスペース&シェアオフィス「ぬましん COMPASS」。
3. フェンシングを通じて交流人口の拡大や地域活性化を目指す取り組み「フェンシングのまち沼津」。フェンシング日本代表をはじめとした合宿も受け入れている。
4. 沼津版スマートシティ推進のために開催した「X-Tech NUMAZU シンポジウム」。
5. ヒト中心の公共空間を体験してもらうための社会実験「アルコミチ」。沿道店舗等の出店やイベントを開催した。
6. コロナ禍で開催できなかった「沼津夏まつり・狩野川花火大会」の代替イベントとして、市内各所で花火の同時打ち上げが行われた。
7. 発端丈山からの景色。日本一の深さを誇る駿河湾や愛鷹山、富士山など、沼津らしさを存分に感じることができる。

### 「宝」を活用したまちづくりで 沼津に更なる輝きを

【江原】沼津はもともと活気づくと思っています。その要素は揃っていますから。

【市長】先ほど挙げた5つの宝をうまくマッチングさせれば、沼津オリジナルのまちづくりができるかと私は考えています。

【江原】他のまちの真似をするのではなく、オリジナリティーを追求するのでは、まちが活気づくための必須条件と言えますよね。

【市長】沼津駅周辺総合整備事業の本格的な始動に伴い、最近では中心市街地の公共空間を活用し、賑わいを創出しようというクリエイティブな発想も生まれています。

【江原】市民の皆さんの熱量も上がってきているということですね。

【市長】そうですね。さらにコロナ禍で地方移住への関心が高まっています。

す。移住に興味のある人が第一歩を踏み出しやすいよう、市では、テレワーク移住支援補助金やオンライン移住相談など、移住を促進するための支援を行っています。

【江原】実は私も沼津でこれからやってみようかなと思っています。それは、耕作放棄地の活用です。地元だけでなく、県外からも夫婦や家族連れに来てもらって、丁寧に畑仕事をレクチャーするんです。遠くに住んでいて毎日世話ができない畑は、福祉施設と連携して障がいのある人にお世話をお願いしたり、収穫した作物を販売してもらえば雇用も生み出せます。

【市長】沼津は、農業に適した風土と言えますが、担い手不足で農地を放棄してしまう人も多いため、農福連携は可能性がありますね。

【江原】みんな好きで放棄するわけじゃないんです。今まで誇りを持ち、大切にしてきた土地やノウハウを、できることなら次世代へと繋いでいきたい。

でも担い手がない。ですから、農家の皆さんの大切にしているものが悲しい姿にならないように、少しでも後継者支援に貢献したいんです。

### 今、リスタートの時

【市長】現在、中心市街地の整備やポストコロナに向けた取り組みなどが着々と進んでおり、加えて、令和5年には市制100周年も控えています。今年には沼津の変革の年になりそうに気が引き締まります。

【江原】成功とは温故知新です。沼津は古くから東海道の宿場町として栄えてきました。ですから、今までの歴史を振り返り、そこからヒントを得れば、これまで以上に輝くことができる。私はそう信じています。

【市長】地域風土や自然環境で育まれてきた歴史や文化をもう一度見直し、大切にし、感謝する。そうすれば、沼津の持っている優れたポテンシャルに改めて気づき、活用できますね。

【江原】長くその土地に住んでいると、魅力や恵みを当たり前だと思ってしまうがちです。「すぐく恵まれてる、でもこうしたらもっと良くなるんじゃないか」と考えることを忘れないでほしいです。



では、日本フェンシング協会との包括連携協定や沼津版スマートシティの推進に向けた、産学官連携による協議会の設立など、いろいろな繋がりができています。江原さんをはじめ、今後この様なご縁を最大限に活かして、より良いまちづくりに繋げていきたいと考えています。

【江原】今回のお話を通じて、私も沼津に住みたくなってきました。

【市長】いつでもお待ちしておりますよ。今後も沼津を盛り上げていくために力を貸して下さい。本日はありがとうございます。

【江原】ありがとうございます。今後とも燦々ぬまづ大使として、沼津の魅力をたくさん発信していきたいです。